

## 紅炎の紹介

元は、技術関連のフリーランスのロシア語の通訳でした。90年代に入ってソビエトロシアの崩壊と混乱に加えて、日本社会のリストラの波に乗せられてロシア語の世界から排除され、英語の実務翻訳（技術、法規法令、契約書、訴訟関連など業務文書の英文和訳）の翻訳者として細々と身過ぎ世過ぎの生業をして今日に至ります。その間さまざまな事情で、心積もりだけで実現しませんでした。2009年2月になって、ようやく自前のウェブサイトを立て、「平成の艶本戯作者<sup>えほんげさくしゃ</sup>」と称して、江戸期に大いに読まれた「枕本」などの「艶本」の類のジャンルに属する読物のスタイルを借りた10篇あまりの十八禁の物語を上梓し、次いで外国人学習者向けに「日本語動詞用法辞典 (Usage of Japanese Verbs, Dictionary)」、「日本語助動詞用法辞典 (Usage of Japanese Auxiliary Verbs, Dictionary)」を公開しました。

しかしながら、国の内外からアクセスとダウンロードがかなりありながら、些少の購読料金にもかかわらず、誰からも支払ってもらえないばかりか、何のコメントも寄せてもらえないのが実情です。最近、凡そ30年前にイタリアに私費留学していた時に興味を抱いた「エトルスカ考古美術」をメインテーマとして撮り溜めた写真をもとに、「エトルリア感傷の旅 (Un Viaggio Sentimentale nell'Etruria)」、「ヨーロッパフォト紀行：第一部・ギリシャ篇；第二部・スイス、フランス、イギリス変；第三部・イタリア国内篇 (Foto-Viaggio nell'Europa: Part I - in Grecia; Part II - in Svizzera, Francia e Gran Bretania; Part III - intorno Italia)」の四篇の紀行文を著し、それぞれ、2011年9月15日、同年11月25日、同年12月28日にウェブ上で公開しました。これは英紅炎のいわばライフワークとも云うべき作品で、その人生の主脈がそれぞれの前文、後書などを含めて明らかにされています。また2012年1月18日には「現代艶本短編集」を上梓したところです。